

神田小の誇りは「明るい笑顔」と「元気なあいさつ」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



学校だより

No. 11 さいたま市立神田小学校
令和5年 3月1日発行 Tel. (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

「幸せ」とは

校長 米玉利 優子

「校長先生、チョークはどこにありますか。」係の子どもたちと話しながら、以前、テレビで見た「日本理化学工業」という会社のことを思い出しました。社員の7割が知的障がい者であるこの会社が作っているチョークを本校も使用しています。

会社設立は昭和12年。知的障がい者の雇用は昭和35年、2人を雇用したのがスタートでした。会社近くにある知的障がい者の通う養護学校の先生が、翌年卒業する子の就職依頼に飛び込んできたそうです。専務の大山さんは門前払いのような感じでお断りしたそうですが、その先生は会社を3回訪ね、最後はこう言ったそうです。「子どもたちは卒業したら地方の施設に入ります。そうしたら働くことを知らずに一生を終えます。もう就職はお願いしませんから、働く経験だけさせてもらえませんか。」

2週間の約束でやってきた2人の少女は昼休みのチャイムにも気づかず、一心不乱にラベル貼りをしました。社員たちは彼女たちの姿に胸を打たれ、実習の最終日に「私たちが面倒を見るから、専務さん雇っていいじゃないですか。」と言ったそうです。

ある日、大山さんは、法事で隣に座った禅僧に「施設にいて3食何とか付きのほう幸せなのに、どうして彼女たちは毎日、満員電車に乗って会社に来るのでしょうか。」と尋ねると、そのお坊さんはこう話したそうです。「人間の究極の幸せは、愛されること、褒められること、役に立つこと、人に必要とされることの4つです。福祉施設で大事に面倒をみてもらうことが幸せではなく、働いて役に立つ会社こそが人間を幸せにするのです。」と…材料の計量は文字を読み、数字を合わせるのではなく、色の容器同色のおもりで作業する。時間の作業は砂時計をみて作業するなど、今ある理解力で仕事ができるようにしてあげると、今まで以上に一生懸命に作業に取り組む姿が見られました。そして、教える社員にも誰かの役に立てるといった大きな喜びが生まれたということです。

愛され、褒められ、人の役に立てること。人に必要とされること。この幸せは、会社だけでなく子どもたちの生活でも同じことが言えるのではないのでしょうか。自己存在感や自己有用感、自分を大切に思い、他を尊重する心につながります。そして、この4つの幸せこそ、これからの社会を生き抜く力になるものであると思っています。「ありがとう。すごく助かるよ。」「〇〇ちゃんがそばにいてくれて、本当に良かった。」子どもたちの何気ない行動や言葉を価値づけてあげることは、大人の大切な役目です。そして、大人の発する言葉を子どもは心で受け止め、栄養として力強く生きていくものだと思います。子どもたちに「幸せ」を感じてもらえる神田小学校にしていかなければなりません。

毎日、登下校指導に立ってくださる地域の皆様、子どもたちを支えてくださるPTAの方々や保護者の皆様は、人の役に立ち、人に必要とされる大きな幸せをもっているからこそ、輝いているのだと痛感します。教職員一同、皆様に追いつけるように精進してまいります。

保護者の皆様、並びに地域の皆様には、今月も、そして来年度も、子どもたちに幸せを与えるあたたかい声かけと変わらぬ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。